AI活用の本質：『個の生産性』から『組織の知性』へ

データ整備を起点とした、企業価値を最大化する新アプローチ

bloom株式会社

NotebookLM

AI活用の成否を分けるのは「データ整備」への取り組みである

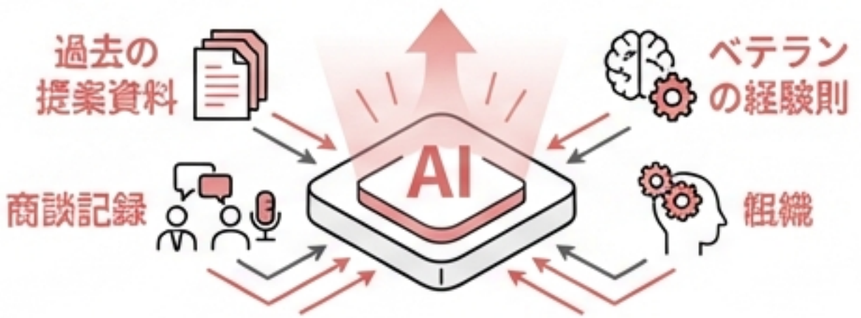
現状（Current State）

多くの企業でAI活用は「個人の便利ツール」に留まり、組織の知的資産が活かされていない。個々の従業員がそれぞれのやり方でAIを使い、成果も個人の中で完結している。



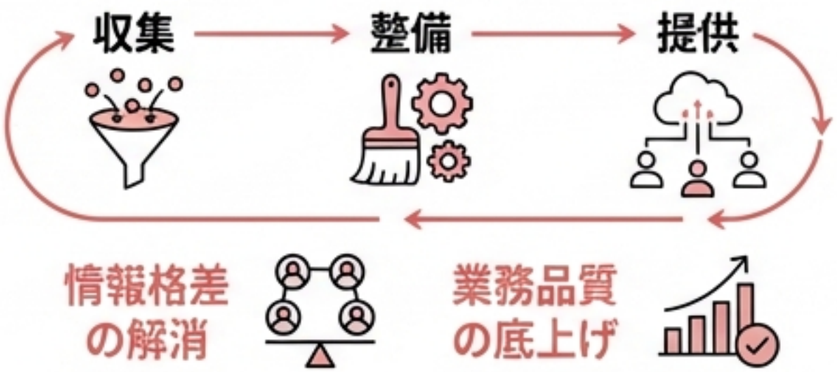
本質（The Essence）

AIの真価は、組織内に散在するデータとナレッジ（過去の提案資料、商談記録、ベテランの経験則など）を集約・整備し、組織全体の知的生産性を高めることにある。



提案（Proposal）

本資料では、データ整備を起点としたAI活用サイクル（収集→整備→提供）の実践方法と、それによってもたらされる「情報格差の解消」や「業務品質の底上げ」といった具体的な効果を解説する。



NotebookLM

多くのAI活用が「単発機能の利用」に留まっている現状

現状: 個人の便利ツール



「画像生成」



「メール文面作成」



「資料のたたき台作り」

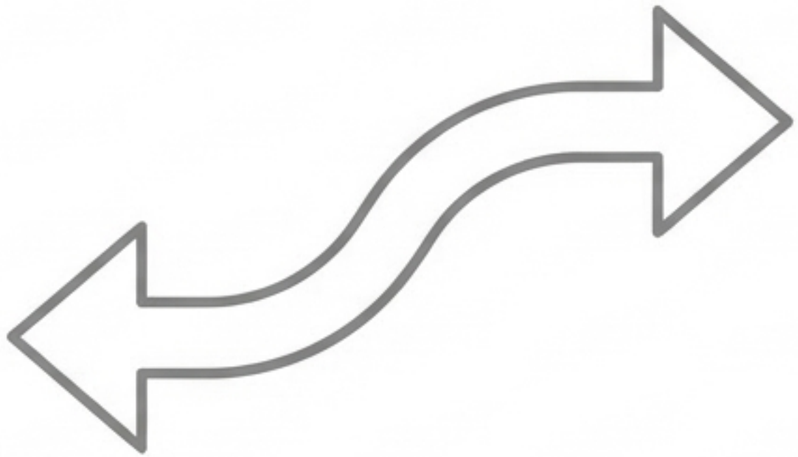
課題: 組織の知的資産の散在



AIが持つ可能性のほんの一部しか活かせていない、非常にもったいない状況。

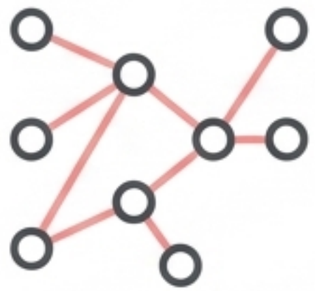
NotebookLM

問うべきは「どのAIか」ではなく
「どうデータを整備するか」



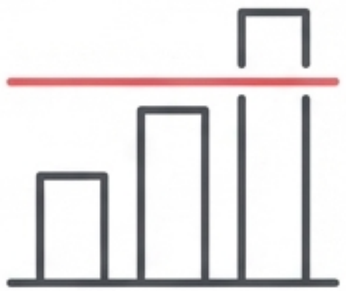
NotebookLM

データ起点のAI活用がもたらす3つの経営価値



情報格差の解消

属人化した暗黙知や過去の経緯を組織の共有財産へ。新入社員でもAIに聞けば即座に情報を得られ、早期に戦力化する。



業務品質の底上げ

トップ層の成果（例：トップセールスの商談トーク）を誰もが再現可能に。組織全体の提供価値の水準を引き上げる。

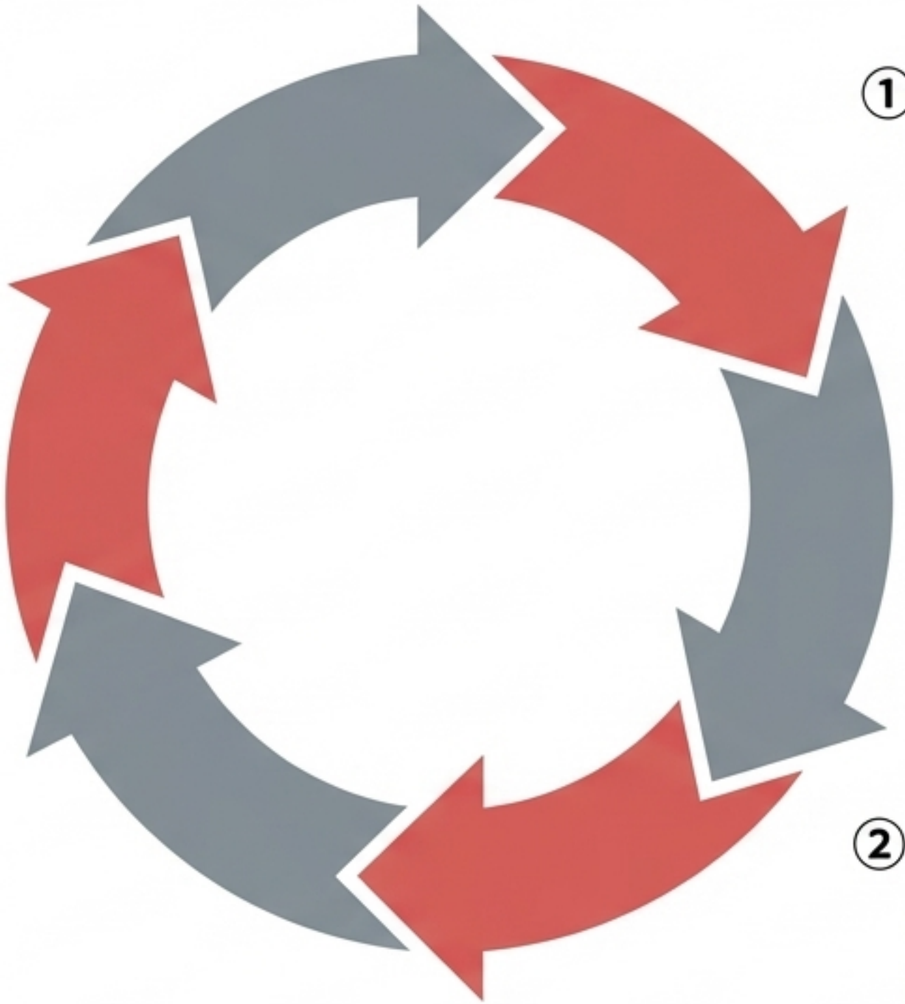


組織の競争力強化

「個人の能力」に依存しない、持続可能な優位性を構築。優秀な人材の採用・定着リスクもヘッジする。

NotebookLM

組織の知性を循環させる3ステップ・サイクル



① データ収集（Collect）

日々の業務から自然とデータが集まる「仕組み」を構築する。

② データ加工・整備（Curate）

集めた情報をAIが読みやすい「資産」に変換・構造化する。

③ ナレッジ提供（Deliver）

業務環境に溶け込む形で、
必要な人に必要な情報を届ける。

NotebookLM

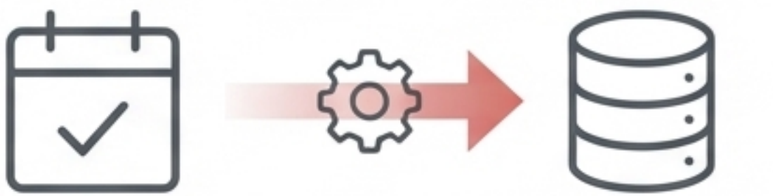
Step 1: データ収集 | 重要なのは「人の意識」ではなく「業務に埋め込む仕組み」

NG - 続かないアプローチ



「人の努力や意識に依存した収集は形骸化する」
(e.g., "打ち合わせが終わったら議事録を書いてください"という呼びかけ)

OK - 継続するアプローチ



「業務フローに埋め込み、自然とデータが集まる仕組みを設計する」

Practical Example: 打ち合わせの録音を「**デフォルトの行動**」とし、自動で文字起こし・情報抽出までを行う。参加者は特別な作業を意識する必要がない。

NotebookLM

Step 2: データ整備 | 収集したデータを「AIが読める資産」に変える

静的データ（Static Data）

組織の「ベースナレッジ」。内容の変更頻度が低い情報。(e.g., 業務マニュアル, 社内規程, 製品仕様書).

動的データ（Dynamic Data）

日々の「最新の知見」。業務の中で生まれ、更新され続ける情報。(e.g., 打ち合わせの音声ログ, 商談記録, マネージャーのレビューポイント).

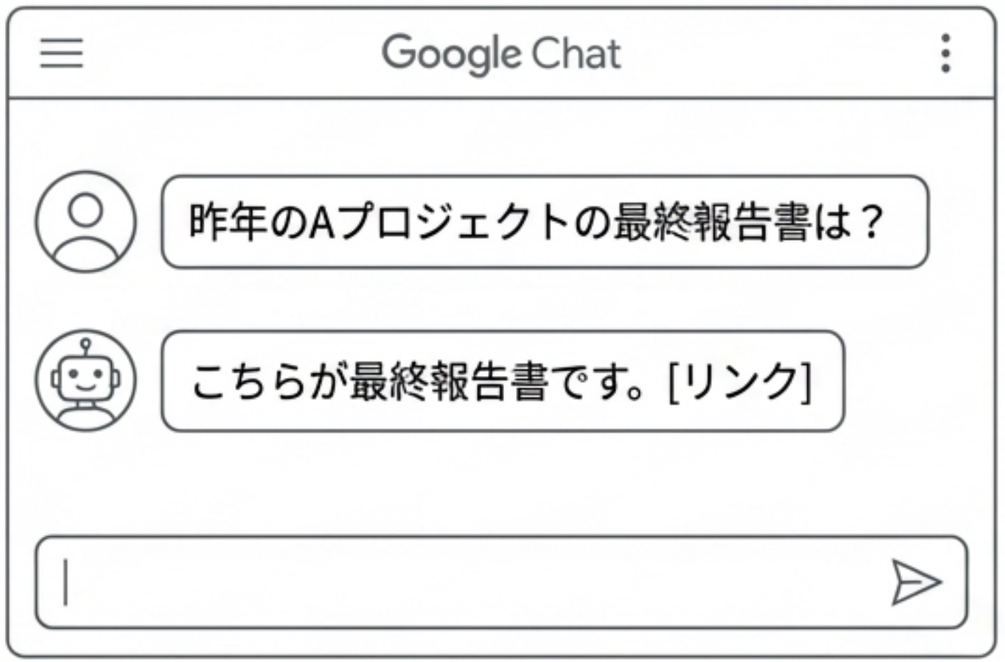
Key Curation Processes

- **形式変換:** PowerpointやPDFをプレーンテキストやMarkdown形式に変換。
- **構造化:** 適切な見出しをつけ、階層構造を明確にする。
- **要約:** ドキュメントの冒頭にサマリーを作成し、AIの理解を助ける。
- **全体像提示:** 複数の文書をまとめるREADMEファイルで関係性を示す.

NotebookLM

Step 3: ナレッジ提供 | 最高の機能より「使われる設計」を重視する

「業務環境から離脱させない」設計が利用率を左右する。



Pull型（検索）

ユーザーが必要な時にAIに質問できる。
RAG（検索拡張生成）アーキテクチャを活用し、
社内ナレッジを基に回答を生成。

Push型（通知）

関連情報が自動的に届く。
「知らないから聞けない」という問題を解決。

Practical Example (Push型): キャリアアドバイザーの面談後、要点（希望条件の変化、次回フォロー事項等）が自動で整理され、担当者にプッシュ通知される。

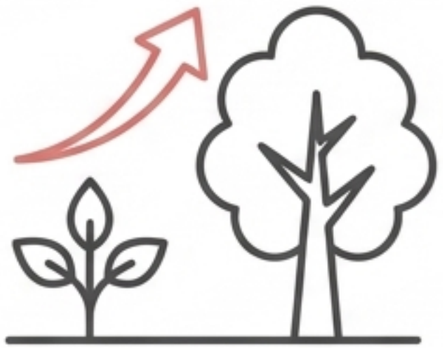
NotebookLM

データ整備を起点としたAI活用が生んだ成果



情報検索の効率化

「あの資料どこ？」「誰に聞けば？」の時間が大幅に削減。AIが即座に必要な情報や担当者を提示する。



新メンバーの早期戦力化

過去の経緯や暗黙知に自力でアクセス可能に。教える側の負担も軽減され、教育コストが削減される。

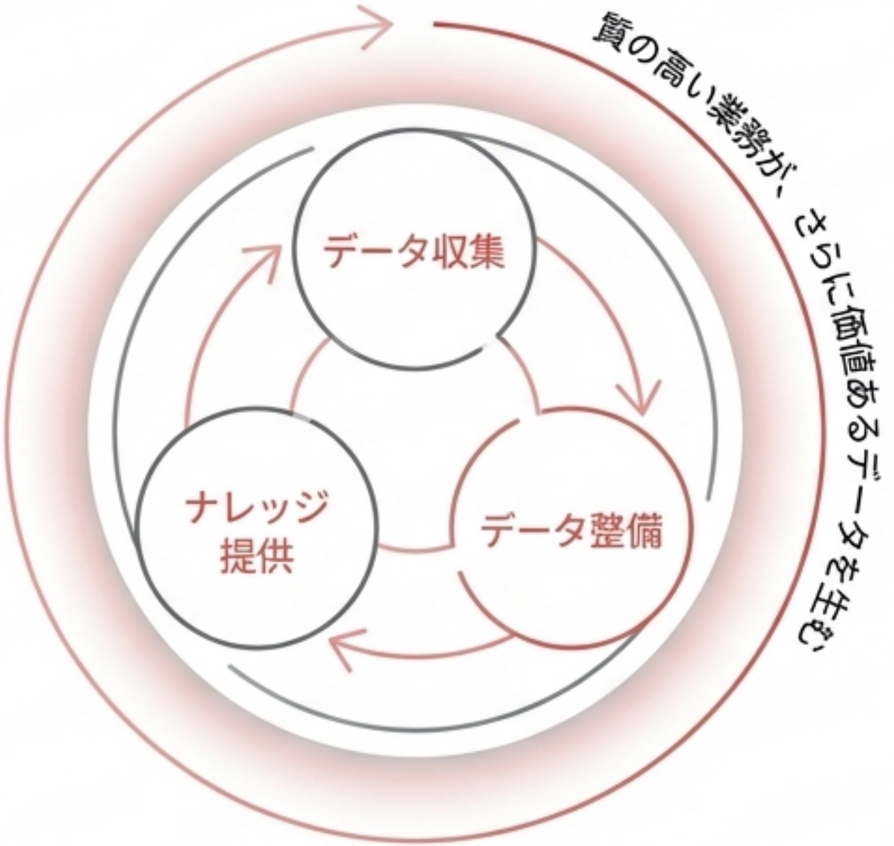


意思決定の質の向上

過去の類似案件や判断基準をAIが提示。場当たり的な対応が減り、判断の質とスピードが向上する。

NotebookLM

データ整備は、組織の知性を継続的に強化するエンジンとなる



これは一度きりのプロジェクトではなく、データを継続的に収集・整備・提供する
サイクルを回し続ける、持続的な取り組みである。

NotebookLM

AI活用の本当の出発点は、
データ整備にある

NotebookLM

bloom株式会社について

私たちbloom株式会社は、本資料でご紹介した「データ整備を起点としたAI活用」を自社で実践し、その知見を基にお客様の戦略パートナーとして伴走しています。

組織の知性を最大化する仕組みの構築にご興味がございましたら、お気軽にご相談ください。

より詳しいお話や、貴社での具体的な活用については、下記までお問い合わせください。

Website: [Website Address]
Email: [Email Address]

NotebookLM